

嘉瀬町・久保田町・鍋島町 3町連携水環境シンポジウム

「森林公園に蛍を飛ばそう」

実施報告書



森林公園アーチェリー場南の池

平成26年3月

特定非営利活動法人嘉瀬川交流軸

嘉瀬町・久保田町・鍋島町 3町連携水環境シンポジウム

「森林公園に蛍を飛ばそう」

1. 開催趣旨

「もう一度、森林公園に蛍を飛ばしたい」「森林公園の池の水質を良くしたい」「わが町の水路の水をきれいにしたい」そんな共通の思いを持った嘉瀬・久保田・鍋島3町からの参加者と、佐賀県、国土交通省の専門家が参加してこれまで議論を重ねてきました。その成果を発表し、議論を通して計画を深めることを目的に、3町連携水環境シンポジウムを開催しました。

2. シンポジウムのプログラム

日 時： 2月23日（日） 午後1時30分～午後4時30分

場 所： 佐賀市立嘉瀬町公民館

主 催： 森林公園水環境創造検討委員会

参加費： 無料

協 賛： 一般社団法人北部九州河川利用協会

13:00 受付開始

13:30 開会挨拶

13:35 基調講演 服部二郎 （嘉瀬川防災施設さが水ものがたり館）
「嘉瀬川の水ものがたり・成富兵庫茂安から現代へ」

基調報告 荒牧軍治 （嘉瀬川防災施設さが水ものがたり館）
「森林公園水環境復活作戦・森林公園に蛍を飛ばそう」
(休憩)

15:00 パネルディスカッション「森林公園に蛍を復活させる戦略会議」

コーディネイター 荒牧 軍治 さが水ものがたり館

パネリスト 鈴木 茂和 嘉瀬町自治会長

城野 真澄 嘉瀬公民館長

久野 英徳 久保田まちづくり協議会準備委員会委員長

池田 一徹 鍋島公民館館長（当日欠席）

久保 和夫 森林公園公園指定管理者代表者

高垣 和博 佐賀土木事務所街路公園課長

3. シンポジウムの概要

【進行（竹下泰彦嘉瀬川交流軸）】

主催者を代表して荒牧さが水ものがたり館館長よりご挨拶を申し上げます。

【主催者あいさつ（荒牧軍治）】

お集まりいただきました本当にありがとうございます。今日のシンポジウムは、これまで検討してきたものを皆様と共有して、次のステップに進むためのキックオフとなることを目指しています。これまでの取りまとめとこれからどうするか議論を皆さんの前でやってみようという趣旨でこの会を開きました。これまで3回ほど少人数で検討会を行ってきましたが、今日はオープンで議論を行いたいと思っています。検討会には佐賀県、国土交通省にも参加していただいています。今日も参加いただいているので、途中でご意見をお聞きしたいと思います。皆様方も自由にたくさん意見を出してください。それを記録し形にしていくのが私たち事務局の仕事です。よろしくお願いいたします

【基調報告1：服部二郎さが水ものがたり館】

「成富兵庫茂安から現代へ」

さが水ものがたり館の服部です。退職後、引き続き2年ほど佐賀県中部農林事務所に勤めていました。

右図は、佐賀県土の概況を示したものです。日本全国では山が3/4で平野が1/4ですが、佐賀県は脊振山系が1000m程度で、しかも比較的山が浅いのが特徴です。佐賀県全体で見ても、平地が全国平均より10ポイントも高く、全国では平地の5倍程度の山があるのに、佐賀では平地の2倍程度の山しかありません。

稲は水をたくさん使う作物で、生育期間役120日で水かさ高で2m程の水が必要だといわれています。反当り500kgとすると、米1kg（ご飯茶碗20杯分）に対してドラム缶（200リットル）20本が必要になります。ざっとご飯茶碗一杯を作るのにドラム缶一杯の水が必要なことになります。佐賀の場合は水源に乏しいことから、先人たちは自力でなんとかしようと多くの知恵を用いました。田んぼを掘り込んで、まず天水（雨水）貯めます。地面より深く掘り込んでいることで水田で一度使った水は、下に浸透するのはわずかで堀のほうに水平に移動して約

嘉瀬町・久保田町・鍋島町

3町連携水環境シンポジウム

「森林公園に蜚を飛ばそう」

もう一度、森林公園に蜚を飛ばしたい。森林公園の池の水質を良くしたい。わが町の水路の水をきれいしたい。そんな共通の思いを持った嘉瀬・久保田・鍋島3町の大人たちと、佐賀県、国土交通省の専門家が参加してこれまで議論を重ねてきました。その成果を発表し、議論を通して計画を深めていきたい。議論に参加し、自分たちの手で町の水環境を良くしていきたい。



森林公園アーチャー場南の池

日時：2月23日（日）午後1時30分～午後4時30分
場所：嘉瀬町公民館 国道307号線嘉瀬元町交差点から南、嘉瀬小の東
〒896-26-5208
主催：森林公園水環境創造検討委員会
参加費：無料
協賛：一般社団法人北部九州河川利用協会

三町連携水環境シンポジウム

13:00 受付開始

13:30 開会挨拶

13:35 基調講演

服部二郎 嘉瀬川防災施設さが水ものがたり館

嘉瀬川の水ものがたり成富兵庫茂安から現代へ

荒牧軍治 嘉瀬川防災施設さが水ものがたり館

森林公園水環境復活作戦-森林公園に蜚を飛ばそう

15:00 パネルディスカッション

コーディネイター

パネリスト

森林公園に蜚を復活させる戦略会議

荒牧 軍治 さが水ものがたり館

鈴木 茂和 嘉瀬町自治会長

城野 真澄 嘉瀬公民館長

久野 英徳 久保田まちづくり協議会準備委員会委員長

池田 一徹 鍋島公民館館長

橋本 辰夫 森林公園公園長

高垣 和博 佐賀土木事務所街路公園課長

会場から佐賀市、国土交通省の専門家にも参加していただきます

シンポジウムポスター

【基調報告1：服部二郎さが水ものがたり館】

「成富兵庫茂安から現代へ」

さが水ものがたり館の服部です。退職後、引き続き2年ほど佐賀県中部農林事務所に勤めていました。

右図は、佐賀県土の概況を示したものです。日本全国では山が3/4で平野が1/4ですが、佐賀県は脊振山系が1000m程度で、しかも比較的山が浅いのが特徴です。佐賀県全体で見ても、平地が全国平均より10ポイントも高く、全国では平地の5倍程度の山があるのに、佐賀では平地の2倍程度の山しかありません。

稲は水をたくさん使う作物で、生育期間役120日で水かさ高で2m程の水が必要だといわれています。反当り500kgとすると、米1kg（ご飯茶碗20杯分）に対してドラム缶（200リットル）20本が必要になります。ざっとご飯茶碗一杯を作るのにドラム缶一杯の水が必要なことになります。佐賀の場合は水源に乏しいことから、先人たちは自力でなんとかしようと多くの知恵を用いました。田んぼを掘り込んで、まず天水（雨水）貯めます。地面より深く掘り込んでいることで水田で一度使った水は、下に浸透するのはわずかで堀のほうに水平に移動して約

県土の概況



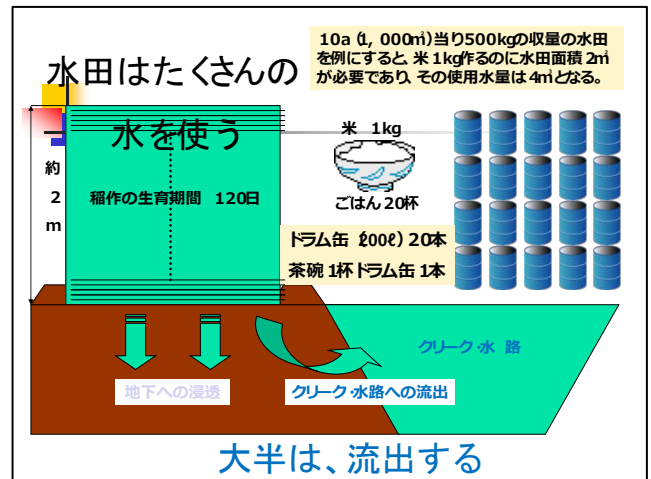
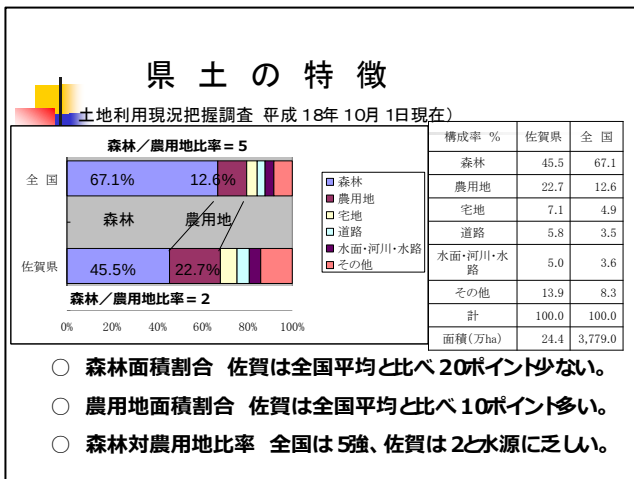
平地 24% 山地 76%

全国 38万km2

平地 34% 山地 66%

佐賀県 2,440 km2

シンポジウムポスター



シンポジウムポスター

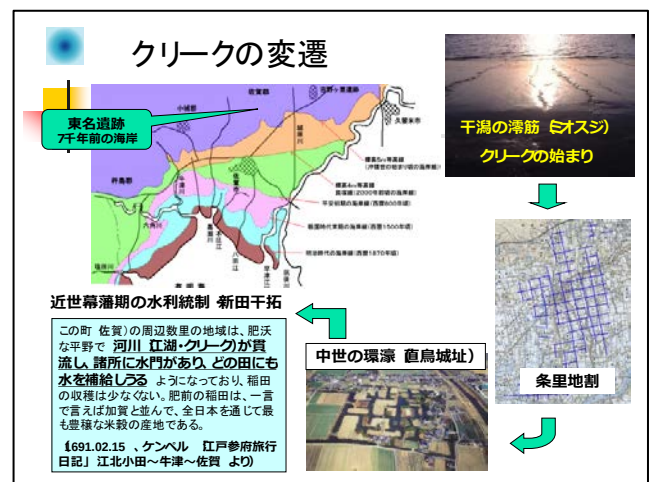
10 日間かけて戻ってきます。田んぼに入れた 5 割から 7, 8 割は堀に戻ってきます。クリークを掘って、乏しい水を 4 回も 5 回も使うというのが佐賀平野の特徴です。

佐賀平野のクリークの変遷は有明海に深く関連しています。干潟を見てみると多くの滞筋があり、それが平野の中に「流れ濠」の形で残ります。奈良時代の条里制の時代に横につないで、縦横の水路網が出来上がります。中世になると堀が平地の城の役割を持つことになり、そのような城が、佐賀平野の各地につくられることになります。

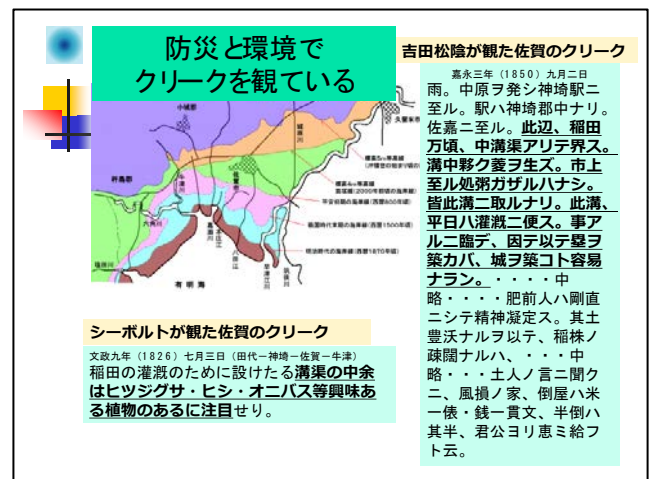
成富兵庫茂安が佐賀平野の導水の仕事をしたところ、オランダの医師ケンペルが佐賀平野を歩いた時の事を「河川が貫流し、至る所に水門があって、水田に水を補給できるようになっている」と記に残しています。江戸の初期にはどの水田にも水を得られる仕組みができていたことを示しています。これは北陸の加賀と並んで日本の中で最も優れた土地だとケンペルは感心しています。

幕末にシーボルトが長崎から江戸に向かう時に佐賀の堀を博物学者の視点で見て「私は堀の中にヒツジグサ、ヒシ、オニバス等の興味ある植物を見た」と記しています。また吉田松陰が長崎に行く途中に残した日記には「この辺りは稲田が盛んである。その中を堀で区切ってあり、その中におびただしい数のヒシが茂っている。至る所でヒシを売っており、すべて堀からとれたものである。堀は、普通の時は灌漑に使っているが、戦時には泥を上げて土塁を築けば、

シンポジウムポスター

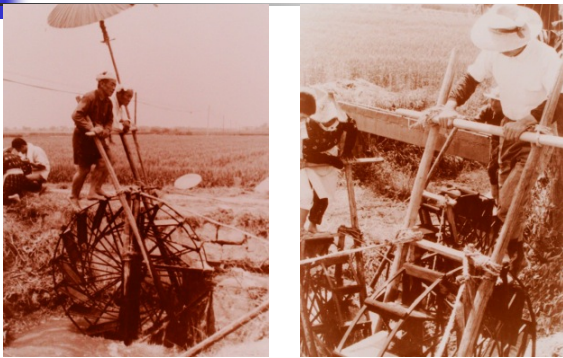


シンポジウムポスター



シンポジウムポスター

クリーク農業 足踏み水車による揚水作業



シンポジウムポスター

堀そのものが城になる。」と防衛上の機能にも興味を示している。

お年寄りの方々は記憶にあると思いますが、クリークから水田に水を上げるのに非常に大変なものです。上図にあるように、踏み車で水を上げますが、水田面が高いと踏み車を2段にして水を上げています。水を上げるのは夏場の暑い時期なので非常に過酷な労働です。春先になると、クリークが十分な貯水能力を持つように泥を上げる「ごみくい」の作業を行います。桶に紐をつけて、底にたまった泥を水田に上げます。当時は化学肥料がなかった時代でしたので、栄養分にとんだ泥を水田に上げるのは、重要な肥料供給の作業だったのです。

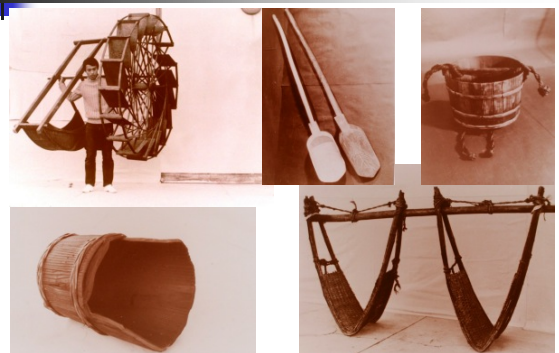
このような作業に用いた道具の材料は、筑後川を下ってきた杉材が使われています。日田からいかだで下ってきて、諸富・大川で加工されます。現在は家具の生産で有名ですが、当時は主に杉材を使って農具を作っていました。このような道具は各農家にありました。踏み車は一人で持ち運びができるほど軽く、肩に担いで水田に使っていました。このスコップの形をしたものはゴミクイのための「カンピョウエ」という道具で、こちらは手桶と紐のついた桶です。これは乾いた泥を入れて田んぼに配るための道具です。いずれの道具も山の材を用いて作られています。

クリーク農業 春先のゴミくい作業



シンポジウムポスター

クリーク農業を支えた山地の木材



シンポジウムポスター

干拓堤防の作り方① 諫早市干拓資料館展示資料より



- 河川が運ぶ土砂と潮汐作用があいまって、微細な粘土が年間平均約5cm堆積。
- 海底だった所に潟が堆積し、干潟に関わりなく海面上に出てヨシなどの草が生える。
- 海面上に四六時中でている潟土と海との際（汀）が堤防を作る所となる。
- 堤防の芯になるように松材を柵のように潟の中に打ち込んで行く。
- 杭柵に粗朶を絡み付ける。この手法で干拓した所を〇〇柵（からみ）と呼んでいる。

シンポジウムポスター

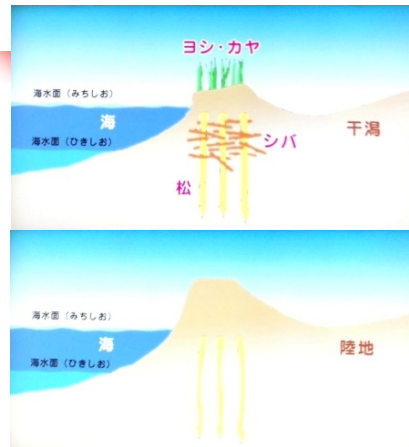
次は人工的に田んぼを作る干拓を考えて見ます。干拓は干潮満潮時の潮の動きを上手く利用して水田を作っていきます。まず、松の木を干潟に打ち込んで、粗朶を松の木に絡ませます。干潮満潮を繰り返しているうちに、杭の周辺に泥がたまって順次堤防の形が出来上がってきます。泥が杭に絡むことから「搦（からみ）」と呼ばれています。そこに植物が生えて固くなってきて堤防の元が出来上がってきます。これらの作業を、集落を単位とした共同作業で行い、江戸時代に佐賀の干拓事業が盛んになってきます。

佐賀の干拓事業で最も盛んなところが福富で、ここには干拓をつかさどる「六府方（ろふかた）」と呼ばれる役所も作られます。この一つ一つの干拓地には代表者の名前が付けてあります。これらは10町歩前後位の小規模な干拓で、今の区長さんを頭にして集落の人たちがせっせと海に向かって搦工法で農地を広げていきます。たような

干拓地では水路そのものが乏しいので背に腹は代えられず、独特の方法で水の確保を図ります。これもシーボルトが「納付は晩秋になると土を積み重ね、3フィート（30 cm）の畝を作って早播きのハダカムギか小麦の種をまく。こうして播いた畝は水のみなざる田から高く出ている、よく茂ったシバの腰掛のように見え、衛生的な休息所といった観を呈している。このムギは六月始めに実る。それから掘り返され、切り株や栄養に富んだ緑肥でこえた土地にすぐ米がつくられ、やがて第二の収穫をもたらす」と書き残しています。

田んぼに筋を付けて土を耕し、順次土を積み上げていきます。このような方法は佐賀だけでなく大河川の周辺の低湿地では、多くの場所で行われています。畝と畝の間に水を貯め込み、高畝には麦や野菜を植えるのです。春先になると、この畝を均して代掻きを行い、稲作に備えるのです。佐賀ではこの方法を「高畝（とうね）打ち」と呼んでいます。

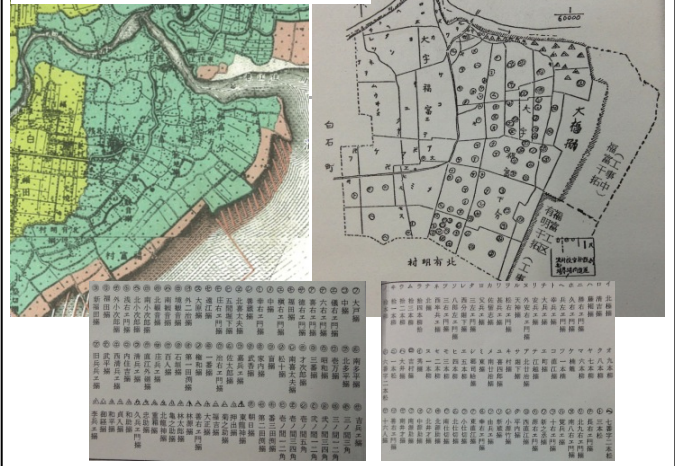
干拓堤防の作り方② 諫早市干拓資料館展示資料より



○ 潟土が満ち潮により運ばれ、粗朶欄列に絡みつき、堆積の厚みが増していく。
○ 粗朶欄列は、堤防を作るために、潟土をここに集めるとともに、これより内側に潟が入らないようにする。

○ 十分に堆積したあたりで堤防の形ができていく。
○ この時分、小潮時を利用して板敷で潟土寄せを行い、ある程度浮泥の乾燥を待つ、杵などで突き固めて堤防を作った。
○ 江戸時代にわたり営々とした鱗状の干拓 数haが作られてきた。

杵島郡白石町福富地内の干拓



シンポジウムポスター

高畦（とうね）打ち

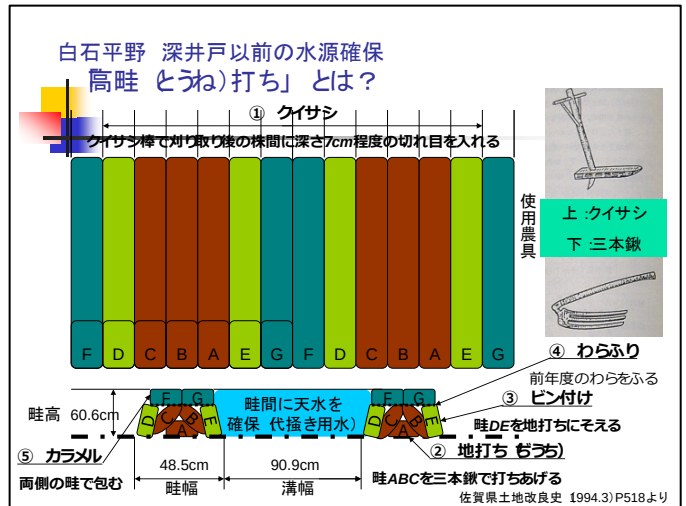


○ 農夫は晩秋になると土を積み重ねて三フィートの幅の畝をつくり、早播きのハダカムギかコムギの種を横の列にまく。
○ こうして播いた畝は水のみなざる田から高く出ている、よく茂ったシバの腰掛のように見え、衛生的な休息所といった観を呈している。
○ このムギは六月始めに実る。それから掘り返され、切り株や栄養に富んだ緑肥でこえた土地にすぐ米がつくられ、やがて第二の収穫をもたらす。
シーボルト『江戸参府紀行 1826.02.19』

シンポジウムポスター

これからは、成富兵庫茂安が行った事業を考えてみましょう。成富さんの方法は、①治水と利水の一体的に処理する ②洪水は土地、土地で分散する ③干満等の川の特성에応じて水进行处理する ④有明海の干満を上手く使って水をゆっくりと流す といった考え方に基づいています。

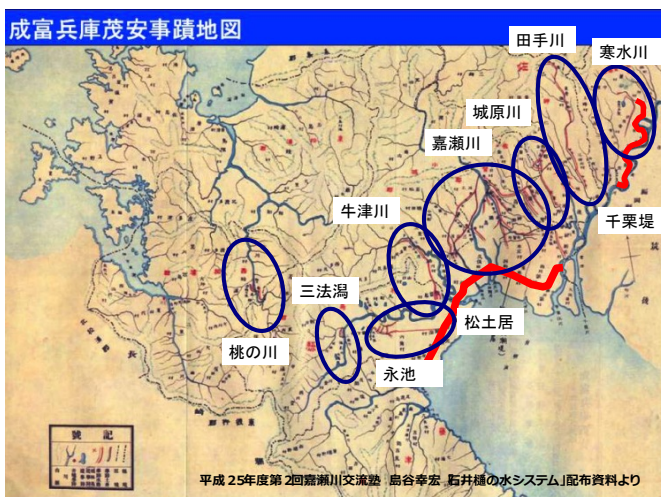
成富さんは、県内各所にため池や堰や堤防などを平野や山麓部に設置しています。このような史跡が各所に点在しています。これが筑後川沿いに設けた千栗土居、こちらが有明海沿岸に設けた松土居です。このような中小河川と平野をつないで広い範囲に水を届ける仕組みを作っています。その代表的なものが我々がいる石井樋です。嘉瀬川の洪水を流す本川と多布施川への水を分離する施設が石井樋です。当時の嘉瀬川は巨瀬川から西の広い範囲に乱流していたと思われませんが、堤防を作って洪水を制御するとともに、人工的に多布施川を造って用水を佐賀城下に配る仕組みを作りました。さらに山からの河川と有明海から遡る江湖（佐賀江・本庄江・八田江）とを一体的に繋いで、山からの水と有明海から昇ってくるアオを使って、平野で使う水を配る仕組みを成富兵庫茂



佐賀の伝統的水利事業のキーワード

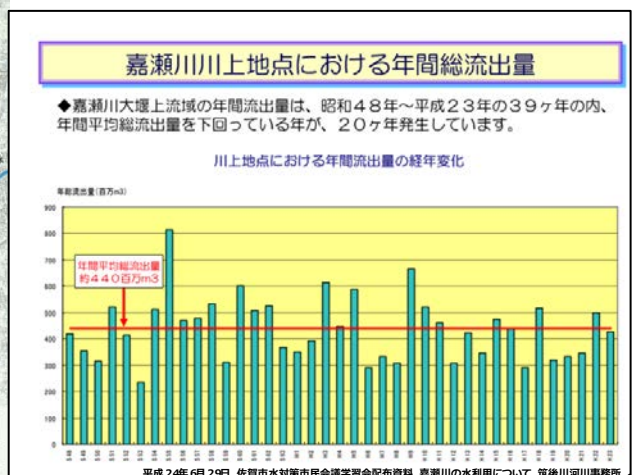
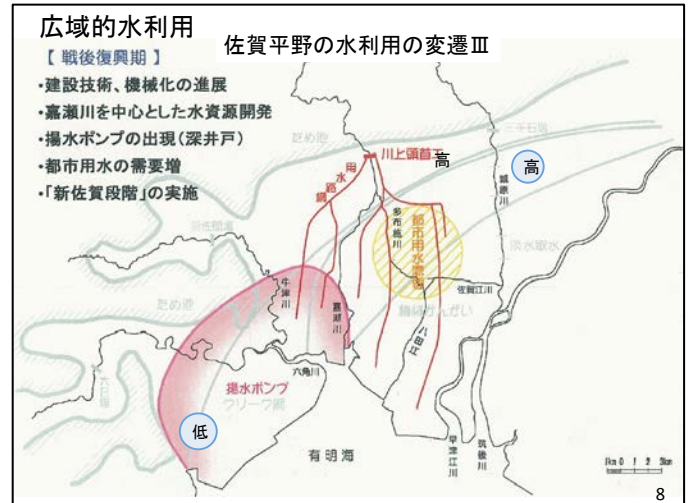
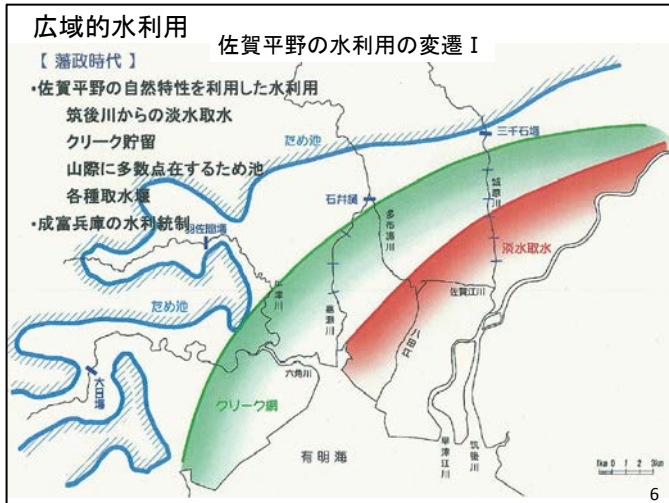
- 治水と利水の一体的処理
- 洪水は土地、土地で処理 分散の思想）
- 河川の特성에応じた処理 大きな干満、土砂の処理、地形の読み
- ゆっくり水を流す
- 地域を管理することの一体化 水管理の仕組み、租税
- 巧みな水処理の装置 水防林、野越し、井出（堰）、草堰、淡水（あお）、樋門、遊水地 洪水防御と土地の肥沃化）、横堤、霞堤、片側堤（用水路）、堤防、水受堤、二線堤、伏せこし、分流施設（象の鼻）、放水路、蛇行、溜池、クリーク、荒籠
- 装置を組み合わせ、システムとして機能させる

平成25年度第2回嘉瀬川交流塾 島谷幸宏「石井樋の水システム」配布資料より



安が作り上げたのです。これは、藩政時代の水の仕組みを示したものです。山麓部、平野部、筑後川下流域それぞれで水源を仕分けながら水を確保する仕組みを作り上げています。これらについてはさが水ものがたり館に来られた時に詳しく説明いたします

それが戦後になると、成富兵庫茂安の時代ではできなかった規模の大きな仕掛けができるようになったし、機械力が使えるようになりました。ため池に代わるダム、水を上げるための揚水ポンプが使え



るようになりましたが、基本形は成富兵庫茂安の時代と変わっていません。筑後川では筑後大堰を作って、それまでアオで取水していたものを、上の方から配るようにし、北山ダムと嘉瀬川ダムの水源を確保することによって、白石平野を含めた佐賀平野全体に、東から西に向かって広い範囲に水が届く仕組みができるようになりました。昨年の嘉瀬川ダムの竣工により、安心して水を使える仕組みが完成しました。

嘉瀬川は、毎年4億4千万トンの水が流れています。最近の傾向を見ると平均より少ない水量しか流れていません。その水はいろんな箇所ではいろんな使われ方をしているので、今後はどのように調整するかが重要になってきます。農業用水については、筑後川の水は佐賀平野の下流域に、北山ダムの水は佐賀平野に、嘉瀬川ダムの水は地下水から切り替えるために白石平野に配られます。

これは不特定用水の使われ方を示したもので、川の流量を安定的に確保する時などに使い



ます。水量自体は小さなものですが、今後これをどのように使っていくかが課題になります。

これは嘉瀬川の水利用を示したものです。北山ダムを中心とした農業用水としての使われ方、それに新たに白石平野に向けて農業用水が嘉瀬川ダムの中に設定されています。さらに佐賀市の水道、佐賀の西部水道、西佐賀水道などの水道用水あり、工業用水としては王子製紙や杵島工水などがあります。これらは特定の人を使う「独占排他的な水利用」として認められているもので、私たちが欲しいといっても使えない水で、嘉瀬川に権利として張り付いています。

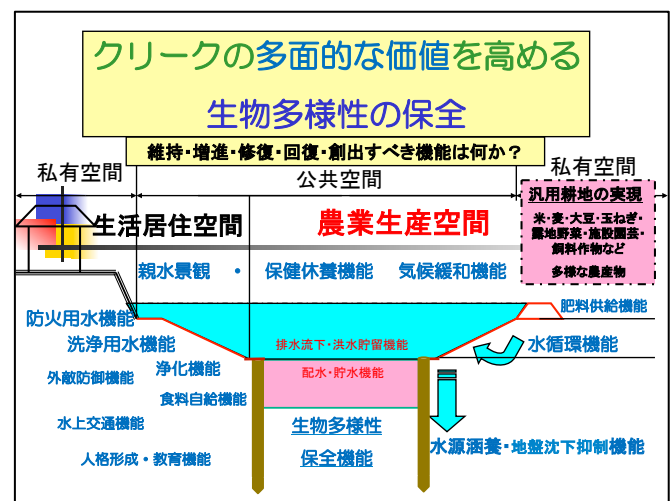
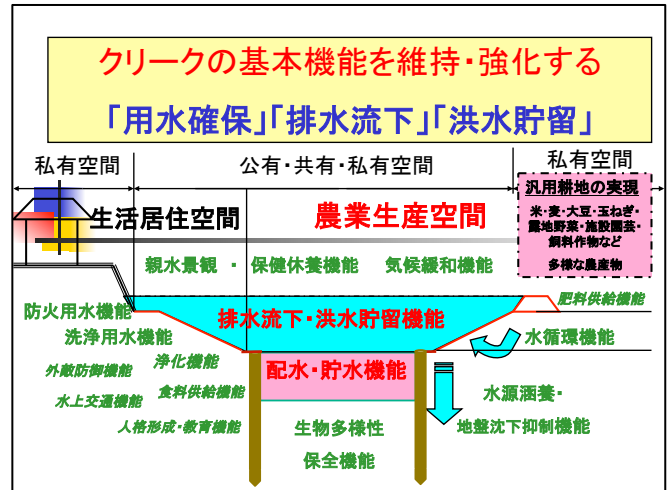
クリークにもう一度戻ります。クリークの一番大事な機能は用水確保で、そのためにクリークに水を貯め、繰り返し利用します。さらにクリークの空き容量を洪水貯留、洪水調整に使うことができます。先ずは、この基本機能を確保し、更に拡充していく必要があります。クリークは土構造物で、壊れやすいものです。佐賀のクリークは1500kmくらいあるんですが、こここれまで750kmくらいコンクリートで改修を済ませました。残りの分については当てがなくて、これまでやったようにコンクリートで改修を続けると、あと100年くらい懸かりそうです。

50年、100年も待っておれないので、山の本を使う事で750kmのうちの600kmをここ10年で改修してしまおうという事を、佐賀県の前知事が決断して実行に踏み切りました。国の方は幹線部分170kmをやって貰います、残りは全部佐賀県が木の柵で護岸の整備をしようというわけです。

基本機能を確保した上で我々がこれから生物が生息できる空間を大事にしていかなければいけない。生物多様性をこれからの水空間の大事な役割として考えていく必要があります。

用水と排水と防災機能だけでなく生き物がたくさん住む事ができる空間にすることがこれからの私たちの仕事だと思います。

佐賀県のこれらのクリークと有明海の干潟を、平成24年度に生物多様性重要区域に指定しました。更に来年に向けて、昭和天皇のお立ち台がある東与賀干潟をラムサール登録湿地に指定する取り組みが今なされています。干潟は平野のクリークと一体的に繋がっていますから、ゆくゆくは有明海の干潟全



体、佐賀平野のクリーク全体のラムサール登録に繋がっていけば良いなと思っています。

佐賀平野になぜこれだけ多くの生物がいるかと言えば、多布施川から引き込まれた水が多種多様なクリークに流れ込んでいるからです。またこのプロジェクトのテーマにもなっているホタルの幼虫もその餌もこの空間に住む事もできるのです。

中村哲さんはアフガニスタンの水路構築で、鉄線で囲んだ蛇籠工法を使っています。鉄線は錆びてしましますが、柳の木の根が石を抱え込んで固定します。こちらは掘って4・5年経ったものですが、十分に安定した柳護岸になっています。

生物多様性を考えるとき皇居の庭園管理が参考になります。皇居では切った木は外に搬出しないで、その場で小割にして積んでおくそうです。そこに生き物が住んで分解していくのです。昭和天皇以来、天皇自身がその様なお考えで指示を出されているのです。そのため皇居の中は多種多様な生き物が生息していることが調査で明らかになっています。

生物多様性の視点として金子みすゞさんのここに示した詩の視点が非常に重要です。

これは川上にある與止日女神社で、今年は、1400年祭を迎えます。與止日女神社には、治水と利水を司ると言われている潮満珠と潮干珠が宝物として継承されています。3月22日にそのご開帳があると聞いています。

「何が新しく生まれたもので、何が失われたものであるかをいつも考えること」との柳田国男さんの遺言を、これから水を考えていくときの大事な言葉として示しておきます。





金子みすゞ(本名金子テル)
1903(M36) - 1930(S05)

童謡詩人

金子みすゞさんの視点

【土】

こつんこつん
ふたれる土は
よいはたけになつて
よい麦生むよ。

朝からばんまで
ふまれる土は
よいみちになつて
車を通すよ。

ぶたれぬ土は
ふまれぬ土は
いらぬ土か
いえいえそれは
名のない草の
おやどをするよ。

いないものはない

みんなちがつて、みんないい

みえぬものでもある

【星とたんぼぼ】

青いお空のそと深く
海の小石のそと深く
夜がくるまで沈んでる
星のお星は目にみえぬ
みえぬけれどもあるんだよ
みえぬものでもあるんだよ

ちつてすがれたたんぼぼの
かわらのすきにだまつて
春がくるまでかくれてる
つよいそのねは目にみえぬ
みえぬけれどもあるんだよ
みえぬものでもあるんだよ

【わたしと小鳥とすずと】

わたしが両手をひろげても、
お空はちうとも飛べないが、
飛べる小鳥はわたしのやうに、
地面(じべた)を速くは走れない。
わたしがからだをゆすつても、
きれいな音は出ないけど、
あの鳴るすずはわたしのやうに、
たくさん「な」鳴は知らないよ。
すずと、小鳥と、それからわたし、
みんなちがつて、みんないい。

何が新しく生まれた美しさで 何が失われた大切なものか
それをいつも考えること ー柳田國男の遺言ー



副島種臣書「火國鎮守」

ご清聴頂きありがとうございました

與止日女神社の宝物
潮満珠と潮干珠
利水・治水を自在に制御

基調報告 森林公園水環境復活作戦-森林公園に蛍を飛ばそう

荒牧軍治 さが水ものがたり館館長

これまでの経過を報告させて戴きます。きっかけはここにおられる鈴木さんが私の所に訪ねて来られて「森林公園にホタルを飛ばしたい」と言う事で、現地調査を行おうという事になりました。自然池の北側の先端あたりに飛ばしたいというわけです。「水をどうしよう」と議論を始めたところ、休憩所の近くに井戸があるけど、今はポンプが故障しているとの事でした。その議論をしているときに、森林公園の自然池の水質が良くないことが話題になりました。そこで、ホタルを飛ばす事業と、自然池の水質を改善する作業の両方を考える事にしました。

まず現状の理解ですが、ポンプは故障して修理が必要である事、自然池に入ってくる水は、森林公園に降る雨水（天水）だけであるため、水質を浄化する能力が低い事、自然池の下流部に水質浄化装置が設置されていて、水質浄化をした水を循環させるシステムになっていたけど、これも今は故障して使えないし、元々能力が低くて十分な浄化能力を持っていないため、修理する予定もない事などが分かってきました。

2回の準備会とワークショップを開催して、議論を深めてきました。対策を考えると同時に、森林公園は地域にとってどんなところかも議論しました。例えば、昔はこの土地に刑場があった、磔や首切りが行われており、家族の人がここで分かれたため、別れの松があったことなど、怖い話も出てきましたが、昔はここにもホタルが飛んでいたよという話も出ました。私は何となく下流部のクリーク地帯でホタルが飛ぶのだろうかと疑っていましたので、勇気づけられる発言でした。

また、森林公園は生き物にとっても魅力的な

これまでの経緯

鈴木嘉瀬町自治会長(当時)から
『森林公園に蛍を復活させたい』との提言

現地調査

検討した骨格

- 井戸から揚水
- 水路で自然池へ
- 菖蒲池周辺でホタル
- 自然池の水質浄化も

現状の確認

- ポンプ修理必要
- 池への流入は雨水だけ
- 浄化装置は故障・能力不足
- 外部からの水は嘉瀬川堤防+農業用水路
- 自然池の泥がたまり浅い

平成24年9月20日(木)
第1回準備会 森林公園管理事務所

平成24年10月5日(金)
第2回準備会 さが水ものがたり館



森林公園の水辺景観復活に向けたワークショップの開催

平成24年12月5日(水) 森林公園管理棟会議室

■歴史・思い出に関する項目

- 首切りにまつわる「千人塚」「別れの松」のあったところと教えられて育ったので、今でも怖いところの印象がある。親からは、近づくなと言われていた
- 今でも「心霊スポット」として、インターネットで語られている。
- クリークにつけた「水餅」の記憶がある
- 圃場整備で水位が下がり、水田の風景が今と昔では全く変わってしまった。
- 28水以降、農業と水道が完全に分かれて川が全く変わってしまった。
- 嘉瀬川には多くの蛍が飛んでいた

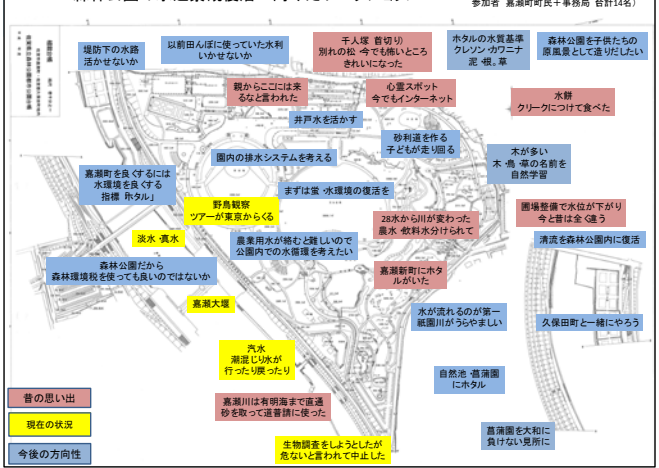
■現在の状況

- 野鳥観察を目的に森林公園に東京からツアー客が来る
- 生物調査をしようとしたが、危ないと言われて中止したことがある。
- 森林公園横の嘉瀬川は汽水域で、潮混じりの水が行ったり戻ったりしている。



森林公園の水辺景観復活に向けたワークショップ

平成24年12月5日(水)
森林公園管理棟会議室
参加者 嘉瀬町民・事務局 合計14名



場所で、森林公園で野鳥観察をする東京からのツアーがあったとの報告もありました。地元の人は気づいていないかもしれないけど、森林公園は価値の高い公園である事を再認識しました。

右のページの図は、出てきた意見を昔の思い出、現在の状況、今後の方向性などに区分けして地図上に示したものです。

一番大事なものは、未来への方向性ですから、それだけ抜き出して右のように整理してみました。ホタルを育てるには、ホタルの幼虫だけを放流しても駄目で、ホタルが育つ場の整備（餌、水など）が必要なので、それらは小城などでホタル復活に取り組んでいる人たちの教えを受けようという事になりました。

森林公園を地域の大事なき奥として子供達に残してやりたいと考えるとき、緑は十分だけど、水環境が良くないので水に触れられない。水に触れながら、緑の中で遊ぶ環境を作ろうというのが一つの目標です。

ホタルが住む水環境の復活に取り組み、自然池、菖蒲園のホタルを飛ばす事を短期的な最初の目標にしようと言う事になりました。

農業用水との関係は複雑なので、何とか折り合いながらやっていかないと行こう、大和の菖蒲園に負けない菖蒲園にしていきたいと思います、未来志向で行く事が確認されています。

これらを受けて、2回の検討委員会を行いました。図にあるような方々に委員になって戴いて、これまでの経過説明を行ったあと、水をどのように確保しようかということから議論を始めました。水環境の問題を議論していて、水環境だけでは面白くないので、嘉瀬・鍋島・久保田の佐賀市西部3町の活性化計画も一緒に考えようという事になりました。

■未来への方向性

- ホタルを育てるには、ホタルが育つ場の環境（水質、底質、クレンソ、カワニナなど）の整備が必要である
- 森林公園を子供たちの記憶の中の原因風景として残してあげたい。
- 木が多い環境を生かして、木・草・鳥の名前を知る、自然学習の場として利用する。
- まずは、ホタル・水環境の復活から取り組もう。自然池・菖蒲池にホタルを飛ばそう。
- 嘉瀬町を良くするには水環境を良くすることである。その一番の指標はホタルである
- 今は天水しか流れ込まないので、水が流れる仕組みを考える必要がある（清流を森林公園に復活する）
- 水が流れるのが何と言っても第一である。祇園川がうらやましい。
- 農業用水が絡むと難しいので、公園内での水循環を考えたい
- 森林公園だから、森林環境税を使っても良いのではないのか
- 堤防下を流れる水路の水を使えないか。以前あった水田に使っていた水が使えないか
- 菖蒲園を大和町に負けない名所にしよう

森林公園水環境創造検討委員会

第1回検討委員会

日時：12月5日（木） 午後3時～5時
場所：森林公園管理事務室

出席者

鈴木 茂和	嘉瀬まちづくり協議会会長
城野 真澄	嘉瀬公民館長
三島 元春	久保田町自治会長
久野 英徳	久保田まちづくり協議会準備委員会委員長
池田 一徹	鍋島公民館館長
橋本 辰夫	森林公園公園長
高垣 和博	佐賀土木事務所街路公園課長
山口 和晃	佐賀土木事務所街路公園課 街路公園係長
荒牧 軍治	さが水ものがたり館館長
服部 二朗	さが水ものがたり館
堤 智美	国土交通省筑後川河川事務所施設管理課
中島 忠	国土交通省筑後川河川事務所防災対策推進官



- これまでの経過説明
- 水の確保についての検討
- 水路（水の流れ）に関する検証
- 佐賀市西部地区活性化の拠点として森林公園を考える
- 森林公園、さが水ものがたり館を拠点にした上下流交流

第2回検討委員会

日時：平成26年1月17日（金）午後3時から5時
場所：嘉瀬公民館

議題

第1回検討委員会の討議のまとめ

今後の課題の検討

テーマ1：水の確保の検討

- ・考えられる案の検討と問題点の整理
- ・26年度の補助金申請について

テーマ2：西部地区3町活性化計画

- ・3町活性化の方向性



これまでの取り纏め作業をやっていた丁度その時、コンサルタント中途退職した私の教え子が訪ねてきましたので、この作業に引きずり込んで手伝わせる事にしました。有能なコンサルタントをただで使える事になったわけです。

「水環境創造作戦」と名付けたプロジェクトです。最初は、ホタルが育つ水路を整備する事業のイメージです。休憩所のすぐ横に井戸があるそうです。やはり、一番手っ取り早、実現可能性が高いのはこの井戸から水を引く事です。県庁の担当者にポンプの修理をお願いします。

ポンプの修理が可能になったら、水路の掘削は森林公園の指定管理者の葉隠緑化さんに掘って貰って、石張りとかは市民が楽しみながらやる「市民参加型公共事業」でやっては如何ですかという案を提案しています。似たような事業を筑後川で実施したと聞いた事があります。筑後川は非常に広く、岸側が水が流れていない地域があったそうです。水が流れるワンドをこちら側にも作る事を国交省に提案したところ許可が出たので、自分たちで重機を操作して水路を付け替えたという報告を聞きました。これと同様の事を時間をかけながらやったらどうかというのが我々の提案です。

井戸からの水だけで自然池の水質が良くなる事は期待できませんから、水を確保する方法を考えなければいけません。元々、森林公園の周りにはどんな水があるかという調査から始めることにしました。

自然池に入ってくる水は、森林公園全体ではなく、自然池周辺だけだと思います。何でだろうと聞いてみたら、森林公園内で肥料を使う事もあるので富栄養を恐れたのではないかと思います。森林公園を歩いてみるとどの領域までの水が自然池に入ってきて、それ以外が外側の排水路に流れているかが大体分かります。

最も可能性があるのは、嘉瀬川の堤脚水路を流れてきた水がテニスコート北西部（A 地点）の水路から、ピットに入ります。そこから管路で森林公園の中を通過して、嘉瀬川への排水門の近くの池の流れ込むようになっています。このピットから自然池の方まで引っ張ってくるには、一度高さを上げなければいけな

水環境創造作戦

1. ホタル水路整備イメージ

- 管理事務所脇の井戸からの組み上げ水によって復活
- 汲み上げポンプ等が故障して使用できない状況にあるため、この修理が必要
- 「市民主体の水路整備事業」方式を採用

↓

市民自らが計画、軽作業等を行う
公共事業



2. 池の浄化のための導水計画

2-1. 森林公園周囲の導水可能な用水路等の状況



A地点: 嘉瀬川左岸堤内の用水路

A地点

(上: H25.12 下: H26.1)

C地点: 嘉瀬川河口堰

B地点

B地点: 農業水路
水量は多く、排水機場に流れ込んでいる?

用排水路であるがH26.1時点で水は流れていない

いのでエネルギーが必要になります。私たちが調査に行ったときはある程度の水が流れていて、十分に使いそうでした。この水をテニスコート裏の池を経由して自然池まで持ってくる案がイメージ A-1 案です。使いそうな水だけど、どうやって持ってくるかが問題です。

テニスコートの北側に水路があります。その水路を使って流す案（イメージ A-2 案）も考えました。この案に期待したのですが、この水路はむしろ、国道の北側に降った雨水を森林公園内のパイプを通して嘉瀬川から排水するために造られたもののように、用水路としては使いにくいものでした。

他に余り水がないかを探していたところ、森林公園の東側に水路があって、森林公園の南側の道路に沿って結構たっぷりの水が流れていました。ここから水田の方に行っている気配がなかったので、調べてみたところ、嘉瀬川排水門の横の池に流れ込んでいるようなのです。この水が農業でどのような使われ方をしているかが問題です。この水が使えるのであれば、最短で自然池に引っ張ってくる案（イメージ B）もあるかなと思います。

この案は微妙な問題を含んでいますので、農業をされている方々の意見を十分に聞かなければいけません。私たちは干魃の時、水が不足しているときに水が欲しいとは言いません。余っているときに水をこちらに流しても良いですかという事を考えたいのです。

テニスコート南の池は流入水がないため水質が相当悪くなっています。そのため、使い捨てカイロを沈めて水質浄化を図る方法を実験しておられますが、赤さが浮いたみたいな状況になってい

2-1. 環境用水導水計画

1) イメージA-1案

嘉瀬川左岸堤防脇堤内の用水路(堤脚水路)より導水する案

- ある程度の水量は確認できた
- アーチェリー場南側の池→野球場前の広場→せせらぎ水路の(せせらぎ水路等を開削し、導水)

確認すべき事項

用水路の水位と、既存のせせらぎ水路の上流端との高低差の確認

用水路の水量確保量がどの程度可能か(季節変動は?)

池全体の浄化効果については、どの程度の効果が期待できるのか(回転率等)

導流する水質の確認



1) イメージA-2案

A-1案と同じく嘉瀬川左岸堤防脇堤内の用水路から導水する案

- 嘉瀬川左岸堤防と雇用促進住宅地の間に位置する用水路の水を利用
- 雇用促進住宅とテニスコートに挟まれた水路→正面入口のエントランス通路→せせらぎ水路の上流端(せせらぎ水路等を開削し、導水)

確認すべき事項

用水路の水位と、既存のせせらぎ水路の上流端との高低差の確認

用水路の水量確保量がどの程度可能か(季節変動は?)

池全体の浄化効果については、どの程度の効果が期待できるのか(回転率等)

導流する水質の確認



3) イメージB

- 森林公園東側に隣接する用水路から導水する案
- 相当量の水量が確認できた
- 最短距離で、管路等により導水する。

確認すべき事項

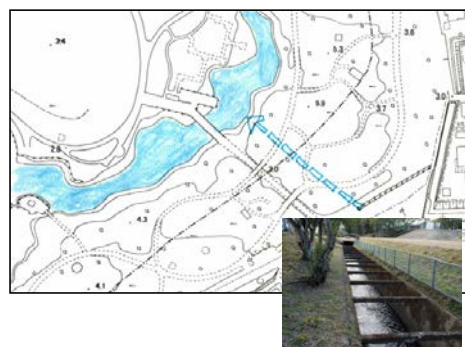
当地点の下流には用水を導入していないのであれば、この用水の全量あるいは一部を、池を通して排水機場に流し込むように迂回させることで、農業用水への影響を最小限にすることが可能。

用水路の確保できる水位と、池の水位、池底との高低差の確認

用水路の水量確保量がどの程度可能か(季節変動は?)

池全体の浄化効果については、どの程度の効果が期待できるのか(回転率等)

導流する水質の確認



ます。

何れの案においても高低差と水量の確認をしなければいけません。水量は季節的にどれだけ変化するのか、自然池の浄化が実現するにはどれくらいの水が必要かの検討も必要です。

私は元々嘉瀬川大堰で貯水されている水を使えないかを考えています。嘉瀬川大堰上で水を取って、森林公園を經由して、嘉瀬川の戻りだけだったら問題は少ないのではないかと考えて訳です。この話をしたところすぐ怒られました。しかし、捨てがたい案です。

水利権の立場に立つとあり得ない案ですが、環境用水という形で考えられないかと思っています。国交省の関係者に聞くと、堰上で取水して堰上のまた戻せば問題は少ないだろうと言われました。

堰上から取水して、関下に戻すとどんな問題が起こるかを検討してみたいのです。すぐ実現可能だと言っているわけではありません。難しいけど検討してみる価値はあると言っているのです。難しいけど「挑戦する」と書いてみました。土木技術者としては、どこが難しいのか、どこかで折り合い点はないのかと言う事を検討してみたいのです。この案はお金もかかりますが、堤防をどのように横断して水送るかも問題です。堤防に穴を開けると言ったら、絶対に駄目と言われます。堤防の上を這わせると交通障害になります。太陽電池くらいの電力で水を送れないかと言うのも検討してみたい課題です。

佐賀市西部3町の活性化計画について

水環境復活作戦は良いけど、折角3町集まるのであれば、西部地域の活性化計画も考えたらとの提案がありましたので、そのことも考えてみました。

鍋島町は、鍋島家発祥の地ですし、何と言っても我々が尊敬する成富兵庫茂安が誕生した土地ですから、そのことを活かすべきですし、何と言っても「28水」の時の破堤箇所でもありますので、そのことを頭に入れておかなければいけない。

嘉瀬町は鑑真和上の上陸地とし

3) イメージC

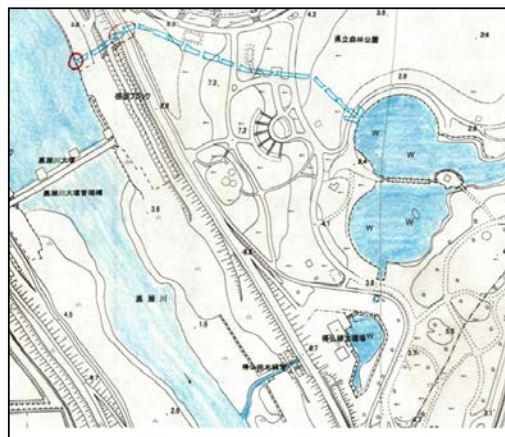
- 嘉瀬川大堰の上流左岸から導水するため、樋管を設け導水する案
- 樋管より導水した水を管路で池の中央部→排水機場の排水樋管を→嘉瀬川本川

確認すべき事項

環境用水のための樋管を、嘉瀬川本川堤防を横断して設けることができるか

樋管の整備が不可→ポンプアップ→堤防天端→公園敷地内水路→池に導水
(天端道路を横断する際の工夫・処理は必要となるが)

挑戦する



佐賀西部地域活性化作戦

1. 歴史を学ぶ

鍋島町

鍋島家発祥の地 成富兵庫茂安の生誕地
28水破堤箇所(石丸久光氏)



破堤箇所(鍋島)

嘉瀬町

鑑真和上上陸の地(嘉瀬津)
俊寛墓(法勝寺) 嘉瀬刑場→千人塚
28水→海岸堤防を切る→1ヶ月浸水

久保田町

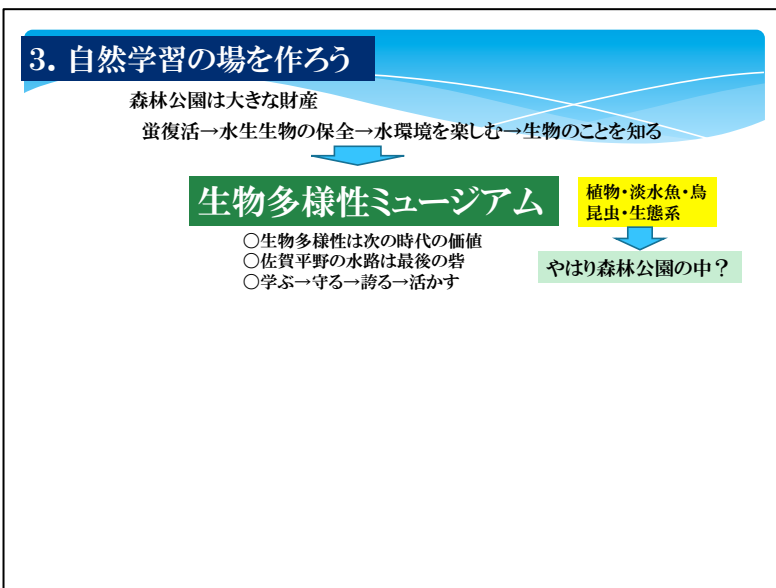
竜造寺家(政家→高房(断絶))
伯庵→幕府に訴え(化け猫騒動)
→水戸藩預かり
▶ 隆慶一郎「死ぬことと見つけたり」

久保田村田(4親類の1つ)(高房弟・安良)



浸水状況(嘉瀬)

先日九州大学で開催された応用生態工学会で東与賀町のラムサール登録に関する活動報告を行ったところ、多くの先生方から「荒牧先生、ラムサール登録も結構ですが、内陸部のクリークの生き物の保全活動を是非行って下さ



い。佐賀平野は多くの絶滅危惧種の最後の生地になっています」と陳情を受けました。それで、生物多様性ミュージアムを構想してみました。植物、淡水魚、鳥、昆虫、生態系を学習する場が欲しいのです。それを森林公園内で構想してみてはどうかと思います。

嘉瀬町・久保田町・鍋島町 3町連携水環境シンポジウム

「森林公園に蛍を飛ばそう」

パネルディスカッション

【荒牧コーディネイター】

第2部のパネルディスカッションを始めます。タイトルを「森林公園水辺復活作戦戦略会議」としましたが、後半では佐賀市西部地区の活性化についても議論をしたいと思います。今日参加していただいたのは、水環境を検討する会議のメンバーです。パネリストを紹介します。嘉瀬まちづくり協議会会長の鈴木さんです。昔から付き合いの長い嘉瀬公民館長の城野さんです。久保田でまちづくり協議会準備会の会長をされている久野永徳さん、今話題にしている森林公園の指定管理者の代表をされている久保和夫さん、佐賀県土木事務所街路公園課長の高垣和博さんです。他に国土交通省、佐賀市の方にも参加していただいています。が、「難しいことは聞かないでください」と釘を刺されていますので、今日は一緒に考える立場で、参加していただきたいと思っています。最初に、この活動を最初に提案された鈴木さんから発言していただきたいと思っています



【鈴木嘉瀬まちづくり協議会会長】

嘉瀬町では嘉瀬まちづくり協議会準備会を平成23年度に立ち上げ、24年度にまちづくり協議会が発足しました。まちづくり準備委員会の中で何回か座談会を行って、多くのことを議論してきましたが、今日は環境に絞ってお話しいたします。嘉瀬町の中でどの環境が良くて何が悪いのかを話し合いました。嘉瀬町は、本庄川・嘉瀬川、そして南部には有明海があり、非常に自然環境に恵まれ、住みやすい町です。一方、先ほどから話が出ていたように昔は水環境が良く、蛍も飛んでいたのに、現在は一転して悪くなっているという

のが共通の認識です。例えば、クリークに繁茂する外来種が増えてきたことで、水の流れを悪くしています。テレビでも紹介されていましたがアサザと呼ばれる水草が嘉瀬のクリークに生息しており、これが流れを阻害しているので何とかならないかという話が出ています。しかし、この種は絶滅危惧種であり、全部取り除くことは非常に問題があります。その管理をどうするのかという議論がありました。最終的には、「嘉瀬の町にきれいな水を流し、昔たくさん生息した淡水魚が戻ってくるような水環境を作る」ことが嘉瀬町にとって最も良いことではないかという結論になり、夢プランの中に盛り込みました。具体的には、「蛍が飛ぶようなきれいな水が流れる風景を復活させたい」との議論から、とりあえず「森林公園に蛍が飛ぶ」ような水環境ができれば、「嘉瀬町の活性化にも結び付く」との結論になりました。



森林公園の水環境を良くするには何をすればよいのかを佐賀県の土木事務所、葉隠造園の社長さんそして荒牧先生のところへ相談に行きました。その結果「皆で考えよう」ということになりました。

皆さんもご存じのように、県庁から美術館に行くところ、STSの前に蕎麦屋さんがありますが、その前の川で、赤松校区の自治会長さん達が「蛍を飛ばそう」と一生懸命勉強され、自治会が幼虫から育て、蛍川と呼ばれる水路を作って幼虫を放流し、蛍を飛ばす活動をしておられます。今、6月になると蛍が飛ぶようになっていますが、それを見学に行くと、「水を流す場所を何とか作ってやれば蛍は飛ぶのではないか」と考え、森林公園を調査し、いろいろ勉強しました。ところが、森林公園の池は雨水が流れ込むだけなので、COD（化学的酸素要求量）が高くて、この水では蛍が飛ばないという結論になり、水を探すことにしました。「森林公園に井戸があります」と聞いて、小城でホテルを養育を指導している方にお聞きしたところ「井戸水でも蛍は飛びますよ」ということだったので、井戸水が使えないかということを最初に考え、検討を行いました。葉隠造園の社長さんから蛍専用の水路が作って菖蒲池に流す案のアドバイスがあり、それを荒牧先生、橋本森林公園長さん達に相談したところ、「森林公園を考えるのであれば、行政区域から言って嘉瀬町だけでなく久保田町の皆さんとともに参加していただき、蛍だけでなく地域の活性化まで考えた方が良い」ということになり、今回の活動に至りました。

【城野真澄嘉瀬公民館長】

皆さんこんにちは。公民館でいつもお世話になっています。私がここに座っているのか、おこがましく思っています。特に水環境の専門家でもないし、この問題に対する識見はこの中で一番低いと思っています。館長としてまちづくりの視点でここ10年くらいこの町と付き合ってきました。私の視点は鈴木さんの視点と少し異なっていて、館長になっ

たちょうどその頃、「福祉のまちづくり」の視点で、この町をどういう方向性で「安心・安全」な町を作っていくかという課題について、佐賀市の福祉政策課、佐賀市社協そして校区社協が共同して、平成 17 年 18 年頃から取り組みが始まっていました。その中で出てきた話として、この嘉瀬町は何と言っても「28 水」を受けた町なので防災の視点から福祉につなげていくことが良いのではないかということでした。その時、校区社協の会長も兼務していましたので、私も 28 水の記憶もありますので、そこから始めたらということで、「まちづくり」の視点で取り組みを始めていました。



ちょうどその時期に、国土交通省も鍋島と嘉瀬に 1 町区ずつくらいと連携してハザードマップを作りたいと思っておられました。館長としては、1, 2 だけの地区でつくるでは嘉瀬の安心・安全のまちづくりには繋がらないので、14 自治会全部で取り組むべきだと思いました。最終的には 14 自治会全部で、自治会の方々と一緒に 28 水のマップ作りから始めました。古老の方々と一緒に記憶をたどり、当時を振り返りながら 28 水の時の水の流れを示した保存マップを、3 年かけて 14 自治会全部でつくりました。そのあとに現代版として防災・生活安全・安心マップを 18 年度から 1 年かけて作りました。

2 回にわたって街を歩いた時に、掘割が非常に濁っていました。ちょうどそのころ嘉瀬小学校で 4 年生が水に関する勉強をやっていて、地域と一緒にになって、リトマス試験紙を使いながら調査を行いました。その時も国土交通省に入っていていろいろな調査を行いました。その時も、「掘割が濁って、水がきれいでないな」と思いました。先ほど紹介のあった「ごみくい」を行われていません。確かに井樋はあちこちにできあがっていますが、これは農業のために開けるだけで、普段は淀んでいます。たまたまその時、コイやフナが何匹も浮いて死んでいたのを見ました。

そのようなことを経験したことから嘉瀬まちづくり協議会の中で、この話が出たので、「嘉瀬としても何とか水環境を良くしたら、もっと住みよい街になるのではないか」と私も思いましたし、公民館としてもまちづくりに事務局として関わっていますので、鈴木さん達と一緒に、先ほどから話が出ています森林公園の水環境を良くする活動に参加して、石井樋からずっと歩きながら水の流れを見せていただきました。

「すぐ横を嘉瀬川が流れているのに、なぜ森林公園の池の水が濁っているのかな」を聞いてみたら「嘉瀬川の水は全く来ていませんよ」と言われました。「そうですか。嘉瀬川の水を迂回させて元に戻せばいいことなのに、当時の設計ではなぜそれがなされていなかったのか」と単純に思いました。荒牧先生の話聞いてみると、当時としては嘉瀬川から水を直接入れて迂回させる考えはなかったようです。今までの社会的背景とかいろいろなことがあったにせよ、私たちの中で、農家の方はもちろん、掘割の水がきれいに流れていて

ほしい。そしてその中心が森林公園であれば良いかなと思っています。

行政も地域の皆さんと一緒にこの町を良くしよう、森林公園を次の世代にきちんとバトンタッチしていくことが、私たち大人としての責任があるのではないかなと思っています。このことに公民館としても賛成しながら、できることをサポートしていきたいと考えています。

【荒牧コーディネイター】

城野さんの話を聞いて思い出したことをちょっとだけ紹介します。国土交通省武雄河川事務所は、防災を市民のレベルまで広げていきたいという意識を持っています。竹を河川事務所が仕掛けて、私が座長をしている佐賀平野大規模浸水危機管理計画づくりでは、大きな災害が起こった時に、どうやって被害を少なくするかが柱です。その最後の砦は、自分たちが住んでいる所ではどのような災害が起こるかを知っているかが一番重要なのです。その中でこの嘉瀬町がターゲットになりました。私たちは、嘉瀬川が氾濫した時にどのように水が流れ込んできて、どの深さまで浸かるかという計算結果は提供することができます。地元の方がそれを受け止めていただければ、地図上のその結果を示して、議論をすることができます。それを嘉瀬町では集落単位（単位自治会）で議論をされました。私が戴いた報告書には扇町の防災マップ作りの風景が写真で紹介されていました。その作業の中で町の水路を見て回られて、クリークがいまどういう状況にあるかを認識されたことで、このような活動につながったんだということを理解しました。この嘉瀬町は28水で非常にひどい目に会っているので、防災から始まるのは当然で、そこから水環境へ活動を広げ、それからまた防災に戻っていただければよいかなと思います。

5年前に作った防災マップについては、忘れている方もおられるでしょうから、もう一度見直していただいたら有難い。日常的は、クリークのこと水質のことを議論しながら、防災のことも思い出していただきたいと思います。

【久野英徳 久保田まちづくり協議会準備委員会委員長】

「森林公園に蛍を飛ばそう！」良いですね。それに「西部地域の活性化」すごいじゃないですか。それに今日話の合った「生物多様性ミュージアム」これもまたすごいですね。

森林公園はもともと久保田町ですが、嘉瀬川の大きな湾曲部を真っ直ぐにしたことで、久保田から離れていきました。第2次世界大戦で負けたわけでもないのに、北方領土と同じように領土がとられてしまって、なかなか戻ってきません。そのため、森林公園に対する意識が薄くなっていました。そこでこの話が出てきました。森林公園が少しでも我々の手に戻るのであれば考えなければい



けないなというところまで来ています。

今我々は久保田でまちづくり協議会を立ち上げしていて、3月25日に発足式を行う予定にしています。その中で思斉館の横にクリーク公園がありますが、「森林公園の水質浄化もいいけど、我々のクリーク公園の水質浄化を先にやろうじゃないか」という意見が討論の中で出てきました。「森林公園の応援に行く前に、きちっとクリーク公園をやろうよ」ということを前提に、森林公園の取り組みを応援する体制をまちづくり協議会で作り上げようということになったので3月25日の発会式をまずはやり遂げたいと思います。嘉瀬の皆さんより若干遅れていますが、追いつき・追い越せで頑張ってやっていきたいなと思っています。楽しく議論ができればよいというのが私の考えです。

【荒牧コーディネイター】

私も久保田のワークショップに参加しました。その中で面白い話を聞きました。私が出席する前のワークショップで、「嘉瀬川をきれいにして、何か活動をしよう」という意見が出たんですが、「嘉瀬川は国のものなので触ったらいかん」と言われたというのです。「また、森林公園は県のものなのであんまり手を付けたらいかんてよ」とも言われたというのです。私は「県が国が管理してるからと言って、触ったらいかん、意見をいったらいかん」ということがあるもんね」といったうえで、いろいろ話を始めました。誰かがそんなことを言ったんですかね。皆さんはそんな風に思われているのです。「あれは国のもの、県のもものだから意見もいったらいかん」という意見が出てくることに奇妙な感じがしました。そんなこと言ったら、国土交通省は誰も文句を言わなくて万歳でしょうが、実際はものすごく文句を言ってきて大変なんです。我々はたくさん文句も言いますし、たくさん期待もしているのです。「そんなことは絶対ないです」と言って、嘉瀬川や森林公園をフィールドにした活動も組み込みました。

【会場参加者】

私は、久保田の皆さんの考え方に賛成です。森林公園は県が管理しています。水環境を良くすることは大賛成ですよ。私は県の高垣さんに聞いたんです。「このような計画でやりたいということの書類を出されて承認されましたか」と言われたんです。荒牧先生は手続き的な問題は関係ないと仰ったんですが、手続きは問題がないんですか。私が言いたいことは、ちゃんとそういうこともやっていますよ、県の承認も得ましたよということなんですか。県の専門家も何度の出席して会議を行ったといわれるから、当然、承認済みということで理解してよろしいでしょうかと聞きたいのです。

【荒牧コーディネイター】

今、佐賀県はお金を出すとは言っていませんよ

【会場参加者】

私が言いたいことは、この考え方は非常に良いことでぜひやっけてが、結局は「人・もの・金」ということで経費は誰が出すんですかということを知りたいのです。自主財源があるのか、県が出さないと言っているのであれば国が出すのかということを知りたいのです。

【荒牧コーディネイター】

少し考えてみましょうか。高垣さん、ポンプを直すのにいくらくらいかかりますか。

【高垣和博 佐賀土木事務所街路公園課長】

今ははっきりわかりませんが、何百万の単位だと思います。

【荒牧コーディネイター】

例えば 500 万円としましょう。鈴木さんが水がほしいといっても、我々は 500 万円は出せないじゃないですか。佐賀県が出してくれないとこの案は無しですよ。虫を育てるのは 10 万円位あればできるでしょう。それくらいは稼いでこれます。

【会場参加者】

私は 1 週間くらい前にこの案内状を戴いて「これは良いことだ」と思いました。これを実際にやるとなると、その必要経費、運営費・維持管理費は誰が出すのか、それを県は承認されたんでしょうか

【荒牧コーディネイター】

すぐに県が承認するわけじゃないじゃないですか。我々が盛り上がって、文句を言い続けて 3 年くらいかかって予算が取れたら万々歳ですよ

【会場参加者】

私は国交省が出すという話を聞いたのですが。

【荒牧コーディネイター】

管理者が佐賀県なのに国交省が出すわけじゃないです。決まったら佐賀県が出しますよ。

【会場参加者】

私は今日話を聞くまで、こんな話が進んでいることを何も知らなかったのです。素晴らしい、良いことやられているなとは思いましたが、結局は経費じゃないですか。私はそれを質問したかったんです。

【荒牧コーディネイター】

佐賀県が出すか、国が出すか、佐賀市が出すか、我々が出すか、どこかが出さないといけないのは本当です。最初に狙っているのは当然県ですよ。しかし予算があつていろいろな事業が予算待ちしているじゃないですか。早くしようと思ったら他を押しつけて行かなければいけないわけです。お金を出所を決めなきゃいけないのはその通りです。

【会場参加者】

森林公園の管理をされている方が先頭に立って、予算を確保してあとはボランティアの方が手伝いをする、住民が参加するのが一番良い形じゃないかというのが私の意見です

【荒牧コーディネイター】

先ほど言ったように、ポンプを直せば、水路を掘ったりするのはこの管理をやられている葉隠造園さんに掘ってもらって、我々が石張をする程度はできます。そのことを今から議論していこうとしているのです。

【会場参加者】

今その段階ですか。今初めて聞いて、これまで何回も議論してきているということなので予算の裏付けもできていると思いました。それを聞こうと思いました

【荒牧コーディネイター】

それは早すぎですよ。市民運動は楽しんでやらなきゃいけないのに、なんでも県や国に頼むだけだったら、やりたくないですよ。間違ってますよ。金をとるのも我々の活動ですよ。今のような意見を言ってもらうのは良いですよ。ただ・・・

【会場参加者】

もう一つ伺いたいのは、ここに協賛と書いてある社団法人九州北部河川利用協会という団体は何ですか

【荒牧コーディネイター】

国土交通省に関連した団体、法人ですよ。そこからの支援を受けてこのような活動をしているわけです。ただし、その金額は 10 万円単位ですよ。そこが 1000 万円の補助を出すのであれば、私たちはその申請しますよ。

じゃ、久保さん、森林公園の現状について指定管理者の責任者としてお話をお願いします。

【久保和夫森林公園指定管理者代表】

森林公園の指定管理を引き受けて 4 年目になります。佐賀新聞と我々佐賀緑化が共同企

業体を作って公園管理をさせてもらっています。佐賀県の中でも交通の便の良いところで、少しでも多くの人たちに入園していただくことが我々の運営の目的であると同時に、より安全で、県民・市民に対してよい環境の中で、できるだけ滞在型の公園としての機能を果たすことを頭の中に描きながら、指定管理者として勤めております。

今、蛍の話がでて、いろいろ検討されていますが、私どもは、2 年前に地元自治会長さんからご相談がありまして、私どもは日ごろから、水環境とか生物多様性とかビオトープとかに興味を持っています、そういう方向に向かっての対策等について、会社でも業界でも考えてきています。特に水環境については、国交省さんが今日ご出席ですが、水環境の検討会に我々も参加させていただいております。

私は蛍を飛ばしたことはありませんが、小さいころは我が家の周辺、川の周辺でホタルが乱舞している姿を今でも記憶しています。森林公園でホタルが生息する環境とはどういうものであるかを考えてみると、討論の中で出てきましたように、水がきれいでなければいけません。そのような活動を行うことで「水の大切さ」を十分に理解してくれるものに繋がってくれば大変ありがたいなと思っています。森林公園に蛍が飛ぶことで、嘉瀬町は水がきれいなところだと自信がついて、県内外にPRすることができます。これは大変な財産です。今回の蛍作戦が成功するためには 3 町が一体となり、しかも老若を問わず参加していけば、子供たちの教育の面でも大変な事業であると思います。特にこの活動に参加していただく小中学生にとっては貴重な思い出となりますし、生き物が蘇るということがいかに素晴らしいものかということ認識することにより、地元の嘉瀬、久保田、鍋島を誇りに思うことになります。ちょうど我々の若いころと同じようにすべての生き物が生き生きとしておれば、人間と自然とのかかわりがいかに大切であるかと認識する良いチャンスかなと思います。

【荒牧コーディネイター】

久保さん、プロの目から見て森林公園の自然池の水質はどうですか。流入する水が足りませんか。高垣さんに聞いた方がいいですかね

【高垣和博 佐賀土木事務所街路公園課長】

先ほど荒牧先生が言われましたように、流入する一定の水がなくて雨水だけが流入している状況なので、溜まってしまっていて動きのない水はどうしても水質が悪くなります。

【荒牧コーディネイター】

高垣さんもあとから来られて人だから文句言っても仕方ないですが、もともと考え方として、あの池の水質はどう管理しようとしていたのですか。もともと雨水だけで水質が保てるとは思っていなかったでしょう？池の排出口の近くに浄化装置がつけてあったでしょう？

【高垣和博 佐賀土木事務所街路公園課長】

動いてはいませんが、現在もあります

【荒牧コーディネイター】

最初の設計がまずかったと思うんです。最初から水を外から持ってくる仕掛けにしておけばよかったと思いますが、その時は調整がつかなかったんでしょうね。

【高垣和博 佐賀土木事務所街路公園課長】

そうですね。ちょっと分かりかねますがなんとか自分の域内で処理をしようとしたのだと思います。

【荒牧コーディネイター】

服部さん、ちょっと教えて欲しいんですが、あそこには元々農地があったはずですよ。その水は使えなかったんでしょうか。

【服部嘉瀬川交流軸事務局長】

農地だった場所だから、基本的には水が届く仕組みはあったはずです。

【荒牧コーディネイター】

今の野球場のあたりが久保田の農地だったわけですから、ついこの間まで水源があったはずじゃないですか、あの水はどうなったんでしょうか。

【高垣和博 佐賀土木事務所街路公園課長】

（地図を使って）何かと行政というと「駄目」とかばっかり言ってブレーキ役をすることが多いのですが、無責任なことは言えませんので、今日はその辺はお許しいただきたいと思います。私も「何とかそうなればよいな」とは思っています。地元の方には私より詳しい方もおられるでしょうから、その方々から意見も聞けるかなと思って、今日参加しました。



私が周りを歩いて調査をした結果を話してみます。先ほどの荒牧先生の話と重複しますが、このあたりのところに田んぼがありました。嘉瀬川がこのような流れていたのも、この辺りは、森林公園の拡張前は田んぼでした。この嘉瀬川沿いに水路が流れていて、このテニスコートのところまで来ています。またもう一本、207号線を渡って、同じところに流れてきます。ここからが私たちの調査結果で、アーチェリー裏あたりから四角の暗渠で

ずっと中を通して、自然池の横を通り過ぎて、自然池の一番下流側にポンプ場があるので、そちらにもう一つ池があって、そこに流れ込んでいます。ずっとマンホールが埋まっていますので、それを追っていけば大体このあたりだということが分かります。おそらく、野球場の北側を通り、芝生広場の一部を通り、屋外ステージの前を通してこちらの方に流れ込んでいると思います。

もう一つ私が着目しているのは、お話がありましたこちらの方の水路です。これもちょうど、市道森林公園線が走っていますが、その歩道みたいな形で人が通れるところに、10mに1箇所くらいの間隔でマンホールが付いています。ここの下は、おそらく水路になっています。森林公園線が東側にはなれるあたりで、ちょうど水路の呑み口があって、その歩道のところを通して同じく排水機場のところの池に出てきています。大きくは2系統あるのかなと思います。

この調査結果を考えると、この自然池に対する流れ込みは基本的に無いことになります。自然池の最上流端には、西側あるいは東側から水路が走っています。私が数度見に行ったときは、空々で水は流れていませんでした。ただ、出口は確認しています。

【荒牧コーディネイター】

ここの久保田町の農地に水をどのように配っていたかをご存知の方はおられませんか。結局は野球場ができたときに水がなくなったんでしょうか。

【久保田町参加者】

多分そうだと思います。

【服部嘉瀬川交流軸事務局長】

農地転用と同時に機能停止です。

【荒牧コーディネイター】

現状は今報告があった通りです。何か良い方法はありませんか。水は必要です。そしてできるだけ安く手に入れたい。できるだけエネルギーを使いたくないので、高いところにある水が安く手に入れます。だからできるだけ高いところを流れている水を確保したい。できるだけ高いところを流れている水で、後ろで使っていない水を探したいわけです。久保さんが言われたように、水の質が良い水を探したいのですが、地下水を使うと、「嘉瀬の町は水がきれい」と言ってもらえないので表面水を探したい。

嘉瀬川堤防の脇の堤脚水路には、雨が降っていない時でも結構水が流れていました。嘉瀬川からしみだしていることはないですね。（会場から：それは絶対はないです）堤脚水路を流れてきた水は、深いピットに落ちてしまいます。

ピットの底は-1.9m位でしょう？そうすると森林公園の高さである3m位の高さまで上

げなければいけなくなる。それはちょっと面倒くさいじゃないですか。だから最初は嘉瀬大堰で水が高さを上げているので、その水を森林公園に引き込んだら安く上がらないだろうかと考えました。とにかくまず水を確保する方法を提案したいと思います。考えなければいけないこと、揉めそうなことはたくさんあります。農業用水として使っていないか、河川構造物を横切って水を採れるか、その経費はいくらかかるか、そんなことを全部やった上でないと案を作れません。

一番最初に取り組みそうな案は、深井戸が既にありますのでポンプが修理できれば、蛍を飛ばすだけならできることになります。しかし、自然池の浄化には繋がりません。いくつも検討して最後は仰ったように、森林公園の管理者である佐賀県に「こういうことを一緒にやったら面白いでしょう」提案して予算を付けてもらう必要があります。予算が必要なことは海上の方が仰られた通りです。「地元が盛り上がっていますよ」「面白いでしょう」と選挙に出る人たちがその気になってくれるように活動をしているわけです。

高垣さん、じゃぶじゃぶ池の水源は何ですか。

【この間は佐賀市西部地区活性化に関する討議なので省略】

参加者アンケート

【荒牧コーディネイター】

NPO法人は事業をしたら必ずアンケートを取らなければいけないのですが、準備ができていませので、今日会場に来られた方に一言ずつ話してもらってアンケートにしたいと思います。

【会場参加者 1（嘉瀬町）】

嘉瀬町のまちづくり協議会の副会長をしています北川です。今から本気になってやっていこうかなという気にさせて戴きました。また機会がありました、こういう会を開いていただきたいと思います。

【会場参加者 2（嘉瀬町）】

嘉瀬川沿いに蛍が飛ぶというのは素晴らしいことだと思います。嘉瀬も久保田も農業が基幹産業だと思いますが、それもきれいな水があって美味しいコメができる訳です。そう言うことから、農業用水を使う云々の話も出ていましたが、嘉瀬川沿いに蛍が飛ぶ里ができることは農業団体の方々にとってもマイナスにはならない、プラスになることではないかなと思います。

【会場参加者 3（久保田町）】

鍋島町、嘉瀬町それに久保田町 3 町、佐賀市西部の町が連携してこのような取り組みをやって行って、西部からの発展を目指したいと思います。私も協力したいと思います。

【会場参加者 4（久保田町）】

自分は野球をやっていて、県営球場に非常に縁があって、総合的にこの公園を考えるためにこの会に参加させていただきました。森林公園の施設をもっと活用する方法をもっと勉強したいと思います

【会場参加者 5（嘉瀬町）】

嘉瀬町から来ました堤と申します。森林公園が 2 度ほど拡張する間に、小さいころはよく遊びに来ていましたが、大人になってはたまに行くくらいで、ずっと歴史を見させてもらっています。近くに住む者としては、池の水はやはり汚いと思っています。何らかの手を打ってきれいの方へ持っていけたらと思います。やはり、水があると潤いが出ますので、そのような自然が出来上がっていくことを期待しています。

【会場参加者 6（川副町）】

川副から来ています。さっきから話が出てる、堤防の上を越して水を流す工事を何回か行った経験があり、いくつか実現をしています。ですからできないことはありません。

【会場参加者 7（嘉瀬町）】

2 年前から環境部会のほうで話をさせてもらっていましたが、こんなに大きな話になっているとは思っていなかったのも、これからもこのような話が進んでいくように陰ながら応援したいと思います。

【会場参加者 8（福岡市）】

福岡市から来ました矢ヶ部です。荒牧先生からただ働きをさせられています。今日も覚悟してきましたので、よろしくお願いします。

【会場参加者 9（嘉瀬町）】

嘉瀬町の環境部に属しています本田といいます。最後に一言弁解がましいことを申し上げたいと思います。私は森林公園を作った側にいました。ここはなぜ森林公園かという、我々林務職員が作ったのです。ところが区域が都市計画区域だったので、基盤を作った後は土木部のほうに譲った経緯がありました。その当時は、とにかく嘉瀬川の水を真っ直ぐ通すことだけを考えたので、水が中に入らないようになっています。そういう経緯がありましたので、一言申し上げておきます。これからは環境のほうも考えていきたいと思っています。よろしくお願いします。

【会場参加者 10（嘉瀬町）】

嘉瀬町の吉原と申します。私は勘違いしてしまして、この議論がもっと進んでいて財源等についても話が付いていると思っていました。今日話を聞きますと、まだまだ先の話だということのようです。私はこの森林公園を毎日散歩しています。行政の力が是非必要ですので、国交省の方、佐賀県・佐賀市の方は、この水環境を良くするこの事業が成功するために協力していただきたいと思っています。私も陰ながら協力したいと思っています。

【会場参加者 11（嘉瀬町）】

嘉瀬のふれあい文化部に所属しています藤井と申します。今日は他の部会のほうから出てきました。実際に蛍の話がだいぶ進んでいるなと思いました。今日思ったことは、「お金を取るのも市民活動」という話がありましたが、やはり、いろんな人を巻き込んで一緒になってやっていこうというのが大事ななと思いました。やはりやることは大変で、生みの苦しみがあると思います。生みの苦しみが大きければ大きいほど、楽しみも大きいと思いますので、是非みんなで頑張っていきたいと思っています。

【会場参加者 1 2（嘉瀬町）】

私は嘉瀬公民館主事をしています酒井といいます。私は環境部会の担当をしまして、今日の「蛍を飛ばそう」という話を聞いてまして、やはり難しいと思いますが、環境部会の念願である蛍を飛ばすために、私も頑張っていきたいと思います。

【会場参加者 1 3（久保田町）】

久保田町から来ました。まちづくり協議会の関係で出席させていただきました。嘉瀬が先行してまして、追いついて、追い越すように久保田も頑張っていかなければいけないなど、つくづく思いました。これから頑張っていきたいと思います。

【会場参加者 1 4（久保田町）】

久保田町から来ました。何もわからないで主人についてきましたが、森林公園に蛍が飛んだら良いなと思います。よろしくお願いします。

【会場参加者 1 5（久保田町）】

久保田の三島です。私は嘉瀬の有重の出身ですが、小さいころは本庄江にも蛍が飛んでいました。そういえば本庄江にも蛍が飛んでいたなと思いだしていたところでした。何十年か前の風景を今蘇らせて、森林公園を蛍が飛ぶ公園にしたいと思っています。数年前に鈴木さんから「森林公園に蛍を飛ばそうよ」と相談を受けました。是非その夢を実現していきたいと思いますのでどうぞよろしくお願いいたします。

【会場参加者 1 6（久保田町）】

久保田町から来ました。森林公園に蛍が飛んでいる姿を思い描くとわくわくします。皆さんには大変期待をしています。それから話の中でありました生物多様性も、動植物一緒に興味がありますので、話の進行がありましたら、私にも教えて戴けたらと思います。

【会場参加者 1 7（佐賀県）】

佐賀土木事務所の公園化の秋山と言います。最初にホテルの県について鈴木会長から相談を受けました。今になって思うとホテルから地域活性化まで話しがものすごく大きくなっています。これからも地域の皆さんと一緒にやっていきたいと思っていますので、よろしくお願いします。

【会場参加者 1 8（国土交通省）】

筑後川河川事務所の中島と言います。私は自宅が佐賀市です。今日話を伺いまして、嘉瀬川ダムから水をという意見もありましたが、なかなか簡単では無く、今すぐできますよとは言えない厳しい面はあります。ただ、ホテルを飛ばす事から地域作り、特に川の両岸

で一緒に取り組む話しは、私も色々な川を見てきていますが、余り聞いた事の無い話しなので、できるところは協力していききたいと思います。確かに川づくりは地域づくり、その作業を皆さんと一緒にやって行ければと思っています。隣を流れている嘉瀬川を皆さんが使いやすいように変えていく事は可能だと思っていますので、皆さんと一緒にやっていきたいと思いました。

【会場参加者 19（国土交通省）】

国土交通省の堤と申します。私は神野に住んでいますが、元々は北川副に住んでいて、森林公園については怖いイメージしか無く、「幽霊が出る」とか言う話を聞かされてきましたので、ホタルが飛んでイメージが変わって、人が来やすい公園になると良いなと思います。それから、3町が一緒になって頑張って貰えば、地域が変わっていくのではないかと期待していますので、いろんな意見を出しながら頑張って戴きたいと思います。

【会場参加者 20（嘉瀬町）】

嘉瀬公民館職員で、嘉瀬町に住んでいます永渕と言います。今日は3時半からのパネルディスカッションから参加したのですが、嘉瀬町、久保田町そして行政の方々が、森林公園について話されていて、みんなで住みたい町を作ろうとされているのだなと思いました、また、職員としても何か協力したいと本当に思いました。

【会場参加者 20（嘉瀬町）】

私は県庁のまちづくり推進課で公園を担当しています。私は武雄の山里に住んでいます、そこには毎年1匹か2匹くらいホタルが飛んできます。農薬が少なくなったせいか、水環境もかなり良くなって、ホタルが飛ぶようになっています。皆さんの環境に対する意識を変えて戴ければ、まちづくりに対する思いを寄せて戴ければ、ホタルが飛ぶ日も近いかなと思います。

【久野英徳 久保田まちづくり協議会準備委員会委員長】

水の問題は難しいですね、私は水は飲むだけと思っていましたので、難しいなと思いました、また、ホタルを飛ばす事も簡単にはできないんですね。よく分かりました。わたくしはまちづくり協議会の準備委員会の委員長をやって今度新しく立ち上げるのですが、自然環境担当の部長さん方もおられますので、皆さんたちのコンセンサスを取って是非鈴木さんに協力してやっていきたいと思っていますので、どうぞよろしくお願いします。



参加者全員から感想を聞きました

【荒牧コーディネイター】

時間も参りましたのでこれで終わりにしたいと思います。本当に熱心な議論有り難うございました。皆さんから色々な知恵を戴いて心強く思っていますし、久保田の課が多賀がこれほど大勢参加して戴いて感謝しております。一緒に酒飲んだ仲間はさすがに心強いなと思いました。今日は残念ながら鍋島の池田さんには参加して戴けませんでした、これから3町で連携してやっていきたいと思っています。



提案ですが、佐賀県は、自然池の底質が悪くなっているお金をかけて泥揚げをする計画を持っているという話を聞きました。まだ予算が決定していませんので、どうなるか分かりませんが、時期もよく分かりませんが、多分実施されると思います。自然池の水は一日で降りてしまうようで、ほとんどの魚が嘉瀬川に出て行ってしまいうらしいのです。あの池には色々な面白い魚がたくさんいるようで、うなぎもいるという話も聞きました。そんなに魚がいるのに、逃がす手はないので「掴まえて食べなければ」という話になっています。池の出口に網を張って、魚を捕って、外来魚のブルーギルとブラックバスは食べてしまい、在来種は元に戻そうという話になっています。「ごみくい」の変形版を行って楽しもうという計画です。今年のビッグイベントはそれにしようと思っていて、今日の協賛を戴いている北部九州河川利用協会から資金援助を得て、私たちが企画したいと思っています。来年度はこのイベントを中心に3町連携で活動していきたいと思っていますので、佐賀県が水を落とす時期が決まったら、それを受けて実施したいと思います。

地下水を確保する話、伏流水の調査などを一つずつ楽しみながら進めていきたいと思えます。すぐに予算が付く事は難しいとは思いますが、最後は行政の予算が付かないとこの事業は進められないという事は十分に理解しながら取り組みを進めていきたいと思えます。「我々が作る公共事業」をスローガンに、計画や軽作業に参加し、楽しみながら「公共事業」を進めていきたいともいます。

市民が「自分たちの町をこうしたい」と自分たちで考える。そして、考えたところに国とか県とか市からお金が下りていく、そんなことになるだろうと私は思っています。何も言わないところは何も起こらない。むこうに「やってくれ」と言って「いや予算が」と行った瞬間に何も起こらない、それでもしつこく計画を持っていくところに最後はお金の下りてくる。

土地の利用については、基本は佐賀市が計画して我々都市計画審議会が決定しますが、自分たちで計画を作る事はできます。例えば、久保田町は全域が市街化調整区域ですから基本的には住居は建てられません。しかし、自分たちで「地区計画」を作れば団地を作る事もできるのです。誰かが「地区計画」を作ってくれと佐賀市に言っても、佐賀市は作り

ません。揉めてるところで計画を提案しても旨いきませんから、手を出しません。もし本気で住宅地を作りたいのであれば、農振地区を除いて計画を作ることができますので、やってみる事です。ただし、計画づくりは自分たちでやらなければいけません。

鈴木さんから提案されている事ですが、単に水の問題に限らず、3 町を賑やかにする、少なくとも人が減らないようにする、そんな町にするには、自分たちで考えなければならぬのです。少なくとも今まで久保田町は、都市計画が白紙であった事で、規制がないために土地が安かった事で、多くの人に移り住んで人口が増えてきました。思斉館派生と数がむしろ増えています。これから先は、意図しないと減り続ける事になります。この嘉瀬町も市街化調整区域ですから、少なくとも人口が減らない町にするには、子供を産み、育てるような若者が住んでみたいと思えるような町を作らなければ行けない。その一つが環境だと思っているので、「良い環境の町で子供を育てたい」と思う人を増やしたいと思います。佐賀は公立高校がしっかりしているので高校に通わせるのにそれほどお金がかかりません。私の息子と娘は遠くにいますが、今何を必死に考えているかという、私立の小学校、中学校に入れるかどうかで悩んでいるのです。なぜかという公立高校のレベルが低すぎるから、上の大学を狙うなら私立に行かせなければいけないというのです。

佐賀は暮らし育てるのにはすごく良いところです。ただ、職がないだけです。賃金が安いのであれば、生活環境が良くてしかもレベルが高いことを売りにして人口を減らさないようにしていかなければいけないのです。嘉瀬、久保田、鍋島 3 町は、こんなやり方で活性化する、人口が減らない町にしていくと言う事を自分たちで考えなければならぬのです。今後は若い人も入れながら、若い人が住んでみたいと思う町はどんなところだろうと言う事一緒に考えてみたいと思っています。3 町はまだ土地の値段も安く、一戸建てが十分に建てられるので、環境が良く、しかも学校もレベルが高くなると、住んでみたいと思っ

て貰えると思いますので一緒に頑張りましょう。

私は久保田で死ぬ覚悟でこの町を選びましたのでよろしくお願いいたします。先日のまちづくりシンポジウムで「私はそのうちぼけ老人になって徘徊しますので、その時は久保田の皆さん、『荒牧先生が徘徊しよっぞ』と私を掴まえて下さい」と言いました。皆さん笑っていましたが、私は本気です。大学の先生はぼける事が多いので、その時は見張っておいて貰いたいと思って、久保田の人と仲良くなりたいと思って、今まちづくり協議会の立ち上げを手伝っています。

演説が長くなりすぎましたが、これで終わりにしたいと思います。皆さん、どうも有り難うございました。